

教育の原理

看護学実習指導者養成講習会

科目責任者	音山若穂		単位数	必選区分	
担当教員	音山若穂		1単位15時間	必修	
			授業形式	講義・演習	
授業の概要	本講習会は、教育の本質、および看護基礎教育課程の特徴を理解し、教育理念の実現を目指す意義を見いだすことのできる人材育成に必要な科目として、「教育評価論」を提供する。この授業を通して学生は、教育の本質を理解するための基礎知識を修得する。具体的には、教育の目的と機能、省察型学習、問題解決型学習の基礎となる知識、教育に必要な諸理論を学修する。				
学科目的	教育の目的と機能、及び省察型学習、問題解決型学習の基礎知識、教育に必要な諸理論の学修を通して、教育の本質を理解するための基礎知識を修得する。				
学科目標	1. 省察型学習、問題解決型学習の基礎となる知識を理解する。 2. 心理教育的リーダーシップ訓練と、それに関連する諸理論について理解する。 3. グループワーク等での実践的指導の基礎となる知識を修得する。 ※修了生の特性1の修得に向けて、目標1～3の達成を目指す。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学修	担当
	1	イントロダクション 教育の目的と機能	講義	必要に応じて学修課題を提示	音山
	2	対話（ダイアログ）とは／ 対話による学習（ワールドカフェ体験）	講義 演習		音山
	3	反省的実践家と行為の中の省察 省察（振り返り）学習	講義		音山
	4	対話による学習（ミニインタビュー体験）	講義 演習		音山
	5	Appreciative Inquiryとは 円環的学習過程と4Dプロセス	講義		音山
	6	対話による学習 （ストーリーテリング・ナラティブ分析体験）	講義 演習		音山
	7	問題解決型学習と協働学習 協働に求められる要素	講義		音山
	8	対話による学習（ファシリテーション体験）	講義 演習		音山
評価方法	目標1～3：出席状況、課題提出などを基に、総合的に評価する。				
教科書	特に使用しない				
参考書・ 参考文献等	講義中に案内する				
備考					

教育評価論

看護学実習指導者養成講習会

科目責任者	山口陽弘		単位数	必選区分	
担当教員	山口陽弘		1単位15時間	必修	
			授業形式	講義	
授業の概要	本講習会は、看護学実習の特徴を理解し、実習指導に必要な知識・技術に基づき、質の高い実習指導を展開できる人材育成に必要な科目として、「看護学教育課程論」を提供する。教育目標の達成を目指して行う教育活動において、教育評価の知識が不可欠である。この授業を通して学生は、教育評価の基礎理論、知識を修得する。具体的には、教育評価の意義と機能、評価方法を学修する。				
学科目的	教育評価の意義と機能、評価方法の学修を通して、教育評価の基礎理論、知識を修得する。				
学科目標	1. 最新の評価方法（真正の評価）の手法を理解する。 2. 真正の評価のために必要なルーブリックや統計手法を理解する。 3. 教育評価するにあたって、よい課題のための誤概念の克服方法を理解する。 ※修了生の特性2の修得に向けて、目標1～3の達成を目指す。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学修	担当
	1	教育評価の概要・最近の動向	講義	必要に応じて学修課題を提示	山口
	2	真正の評価とは何か	講義		山口
	3	パフォーマンス課題	講義		山口
	4	パフォーマンス評価	講義		山口
	5	ポートフォリオ課題	講義		山口
	6	ポートフォリオ評価	講義		山口
	7	誤概念・素朴概念	講義		山口
	8	未来に向けての教育評価	講義		山口
評価方法	目標1～3：毎回の出席と小レポートから総合的に判断する。				
教科書	特に使用しませんが、参考書で提示しているものをできればご持参ください。				
参考書・参考文献等	佐藤浩一編著：学習の支援と教育評価，北大路書房，2013				
備考					

青年期の発達と学習

看護学実習指導者養成講習会

科目責任者	音山若穂		単位数	必選区分	
担当教員	音山若穂 垣上正裕		1単位15時間	必修	
			授業形式	講義・演習	
授業の概要	本講習会は、教育の本質、および看護基礎教育課程の特徴を理解し、教育理念の実現を目指す意義を見いだすことのできる人材育成に必要な科目として、「青年期の発達と学習」を提供する。この授業を通して学生は、教育的支援を必要とする対象の理解に必要な知識を修得する。具体的には、青年期の発達の特徴と学習理論を学修する。また、青年期に起こりうる健康問題とその支援の在り方について考察する。				
学科目的	青年期の発達の特徴と学習理論の学修、及び青年期に起こりうる健康問題とその支援の在り方について考察することを通して、教育的支援を必要とする対象の理解に必要な知識を修得する。				
学科目標	1. 成長発達に伴う学習者の心理を理解する。 2. 発達と教育、学習のメカニズム、学習過程や動機づけなど、教育場面に活用する方法を理解する。 ※修了生の特性3の修得に向けて、目標1～2の達成を目指す。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学修	担当
	1	人間の発達の諸相	講義 演習	必要に応じて学修課題を提示	音山
	2	青年期の発達（学習面）	講義 演習		音山
	3	青年期の発達（パーソナリティ）	講義 演習		音山
	4	青年期に起こりうる健康問題と看護学の学習との関連	講義		垣上
	5	青年期に起こりうる健康問題と看護学の学習への影響と支援方法	講義		垣上
	6	青年期の学習支援（教育相談における各種手法）	講義 演習		音山
	7	青年期の学習支援（心理教育的リーダーシップ訓練）	講義 演習		音山
	8	全体の振り返りとまとめ	講義 演習		音山
評価方法	目標1～2：出席状況、授業参加状況、課題提出などを基に、総合的に判断する。				
教科書	特に使用しない				
参考書・参考文献等	舟島なをみ他：看護のための人間発達学、第5版、医学書院、2017 佐藤浩一編著：学習の支援と教育評価、北大路書房、2013				
備考					

看護の本質と専門性

看護学実習指導者養成講習会

科目責任者	山下暢子		単位数	必選区分	
担当教員	山下暢子		1単位15時間	必修	
			授業形式	講義	
授業の概要	本講習会は、看護、及び教育の本質、看護師等養成教育のカリキュラムの特徴を理解し、教育理念の実現を目指す意義を見いだすことのできる人材育成に必要な科目として、「看護の本質と専門性」を提供する。教育理念の実現に向けては、科学的根拠に基づく看護学教育（EBNE: Evidence-Based Nursing Education）が必要不可欠である。この授業を通して学生は、EBNEの基盤となる知識を修得する。具体的には、主な看護理論の概要を学修する。				
学科目的	看護理論の学修を通して、科学的根拠に基づく看護学教育（EBNE: Evidence-Based Nursing Education）の基盤となる知識を修得する。				
学科目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護理論を理解するための基礎知識を理解する。 2. 看護学およびその実践の基礎となる主な理論の概要を理解する。 3. 看護学教育を実践する上で看護理論の必要性を認める。 ※修了生の特性1の修得に向けて、目標1～3の達成を目指す。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学修	担当
	1	看護理論概説	講義	必要に応じて学修課題を提示	山下
	2	看護理論概説	講義		山下
	3	ナイチンゲール「看護覚え書き」	講義		山下
	4	ナイチンゲール「看護覚え書き」	講義		山下
	5	ヘンダーソン「看護の基本となるもの」	講義		山下
	6	ヘンダーソン「看護の基本となるもの」	講義		山下
	7	キング「キング看護理論」	講義		山下
	8	キング「キング看護理論」	講義		山下
	評価方法	目標1～3：出席状況、授業参加状況をもとに、総合的に評価する。			
教科書	特に使用しない				
参考書・参考文献等	フローレンス・ナイチンゲール著 薄井担子他訳：看護覚え書き，現代社，2000 ヴァージニア・ヘンダーソン著 湯楨ます他訳：看護の基本となるもの，日本看護協会出版会，2006 アイモジン・M. キング著 杉森みどり訳：キング看護論，医学書院，1985 日本看護協会編：新版 看護者の基本的責務一定義・概念／基本法／倫理，日本看護協会出版会，2019 ジョセフィンA. ドラン著 小野泰博他訳：看護・医療の歴史，誠信書房，1978				
備考					

授業過程論

看護学実習指導者養成講習会

科目責任者	山口陽弘		単位数	必選区分	
担当教員	山口陽弘		1単位15時間	必修	
			授業形式	講義	
授業の概要	本講習会は、看護学実習の特徴と課題を理解し、実習指導に必要な知識・技術に基づき、質の高い実習指導を展開することのできる人材育成に必要な科目として、「授業過程論」を提供する。この授業を通して学生は、EBNE展開の基礎となる授業設計と展開に必要な知識・技術・態度を修得する。具体的には、教育に対する認知・メタ認知を明確にした上で、授業を成立させるために必要な要件、授業を展開するために必要な教育心理学の諸概念を学修する。				
学科目的	授業を成立させるために必要な要件、授業を展開するために必要な教育心理学の諸概念の学修を通して、EBNE展開の基礎となる授業設計と展開に必要な知識・技術・態度を修得する。				
学科目標	1. 教育に対する認知・メタ認知を明確にする。 2. 授業を成立させるために必要な要件を理解する。 3. 授業を展開するために役立つ教育心理学上の諸概念を把握する。 ※修了生の特性2の修得に向けて、目標1～3の達成を目指す。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学修	担当
	1	授業をする前に大事に考えていること (メタ認知)	講義	必要に応じて学修課題を提示	山口
	2	授業を成立させるいくつかの要素1 (インフォームド・コンセント)	講義		山口
	3	授業を成立させるいくつかの要素2 (フレーム)	講義		山口
	4	授業を成立させるいくつかの要素3 (ラポール)	講義		山口
	5	授業を取り巻く研究(実験者効果)	講義		山口
	6	発達の最近接領域を再考する	講義		山口
	7	「褒める・叱る」ことを再考する	講義		山口
	8	「人間」を再考する	講義		山口
評価方法	目標1～3：毎回の出席と小レポートから総合的に判断する。				
教科書	特に使用しませんが、参考書で提示しているものをできればご持参ください。				
参考書・参考文献等	佐藤浩一編著：学習の支援と教育評価，北大路書房，2013				
備考					

看護学教育課程論

看護学実習指導者養成講習会

科目責任者	清水裕子		単位数	必選区分	
担当教員	清水裕子 大澤真奈美 田村香奈 國清恭子		1単位15時間	必修	
			授業形式	講義	
授業の概要	本講習会は、教育の本質、および看護基礎教育課程の特徴を理解し、教育理念の実現を目指す意義を見いだすことのできる人材育成に必要な科目として、「看護学教育課程論」を提供する。この授業を通して学生は、看護基礎教育に携わる看護職者として教育的機能を果たすための基盤となる知識を修得する。具体的には、看護基礎教育課程のカリキュラムの特徴を学修する。				
学科目的	看護基礎教育に携わる看護職者として教育的機能を果たすための基盤となる知識を修得する。				
学科目標	1. 看護基礎教育課程のカリキュラムの特徴を理解する。 2. 1の理解を踏まえた実習指導を实践する意義を認める。 ※修了生の特性1の習得に向けて、目標1～2の達成を目指す。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学修	担当
	1	カリキュラムとは 看護師等教育課程の概要	講義	必要に応じて学修課題を提示	清水
	2	指定規則とカリキュラムの関係	講義		田村
	3	カリキュラムと看護学実習	講義		田村
	4	カリキュラムの特徴：大学・短期大学	講義		清水
	5	カリキュラムの特徴：助産師教育課程	講義		國清
	6	カリキュラムの特徴：保健師教育課程	講義		大澤
	7	カリキュラムの特徴：看護師3年課程	講義		清水
	8	カリキュラムの特徴： 看護師2年課程・准看護師教育課程	講義		清水
評価方法	目標1～2：出席状況、課題提出など総合的に評価する。				
教科書	特に使用しない				
参考書・参考文献等	講義中に案内する				
備考					

看護学実習指導論

看護学実習指導者養成講習会

科目責任者	松田安弘		単位数	必選区分	
担当教員	松田安弘 狩野太郎 廣瀬規代美 金谷悦子 服部美香 大川美千代 高橋裕子 河内直美 生方尚絵 富永明子 垣上正裕 佐々木馨子 田村香奈 葉騰千香子		4単位90時間	必修	
			授業形式	講義・演習・実習	
授業の概要	本講習会は、看護学実習の特徴を理解し、実習指導に必要な知識・技術に基づき、質の高い実習指導を展開できる人材育成に必要な科目として、「看護学実習指導論」を提供する。この授業を通して学生は、看護学実習の実習指導に必要な知識・技術・態度を修得する。具体的には、看護学実習の特徴と実習指導者の役割、および、実習指導に必要な倫理と教育評価を学修する。また、実習指導場面の参加観察、および模擬実習指導を通して、学生の実習目標達成につながる効果的な実習指導を理解する。さらに、これらを通して自己の課題を考察する。				
学科目的	実習指導を展開する上で必要な教授活動の実際・実習指導計画の学修を通して、学生の実習目標達成につながる実習指導に必要な知識・技術・態度を修得する。				
学科目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学実習の特徴を理解する。 2. 青年期の心理的特徴と実習中の学生の学習活動を理解する。 3. 実習指導者の役割、及び教員との連携を理解する。 4. 実習指導に必要な倫理と評価の知識を理解する。 5. 実習指導者の教授活動の実際を理解する。 6. 実習指導計画の立案とその展開方法を理解する。 7. 1～6に基づき、学生の実習目標達成につながる効果的な実習指導を理解する。 8. 5～7に基づき、実習指導における自己の課題を見いだす。 ※修了生の特性2.3の修得に向けて、目標1～8の達成を目指す。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学修	担当
	1	教育の意義・基本概念 看護学教育における臨地実習の位置づけ 看護学実習の特徴	講義	必要に応じて学修課題を提示	松田
	2	参加観察実習オリエンテーション	実習		松田・高橋 田村・葉騰
	3～4	実習指導と倫理	講義		金谷
	5～6	看護学実習の目標と評価	講義		服部
	7～8	看護学実習における教授活動（1） ・形成的評価に基づく指導と総括的評価への協力	講義		松田
	9～10	看護学実習における教授活動（2） ・看護現象の教材化・カンファレンス	講義		松田
	11	人間の発達と学習過程における青年期の心理的特徴 看護学実習中の教員の教授活動と学生の学習活動	講義		河内
	12	実習指導の実際（領域別）基礎看護学	講義		大川
	13	実習指導の実際（領域別）地域・在宅看護論	講義		佐々木
	14	実習指導の実際（領域別）母性看護学	講義		生方
	15	実習指導の実際（領域別）小児看護学	講義		富永
	16	実習指導の実際（領域別）成人看護学	講義		廣瀬
	17	実習指導の実際（領域別）老年看護学	講義		狩野
	18	実習指導の実際（領域別）精神看護学	講義		垣上
	19	実習指導者の役割と教員との連携	講義		河内
	20～21	実習指導計画の立案	講義		松田
	22～27	実習指導の実際 ・実習指導の参加観察	実習		松田・高橋 田村・葉騰
28～31	参加観察した実習指導者の教授活動の理解 (学びのまとめ)	演習		松田・高橋 葉騰	
32～33	実習指導者の教授活動 (成果発表)	演習		松田・高橋 葉騰	

	34～41	実習場面の模擬指導 (ロールプレイ)	講義 演習		松田・高橋 田村・葉騰
	42～44	実習目標達成につながる効果的な実習指導 (成果発表・まとめ)	演習		松田・高橋 田村・葉騰
	45	実習目標達成につながる効果的な実習指導	講義		松田
評価方法	目標1～8：出席状況、課題提出など総合的に評価する。				
教科書	特に使用しない				
参考書・ 参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> ・舟島なをみ監修：看護学教育における講義・演習・実習の評価，医学書院，2005 ・舟島なをみ監修：看護学教育における授業展開一質の高い講義・演習・実習の実現に向けて― 第2版，医学書院，2019 ・手島恵監修：看護職の基本的責務 定義・概念/基本法/倫理，日本看護協会出版社，2022 ・サラT.フライ他著 片田範子，山本あい子訳：看護実践の倫理 第3版，日本看護協会出版社，2010 				
備考					